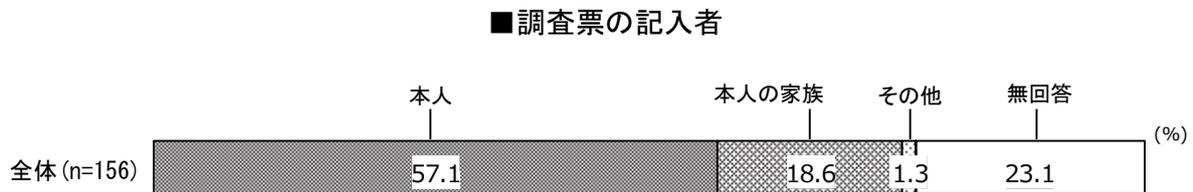


6. 介護保険サービス未利用者調査

(1) 基本属性

① 調査票の記入者 (問1)

調査票の記入者は、「本人」が57.1%、「本人の家族」が18.6%となっている。



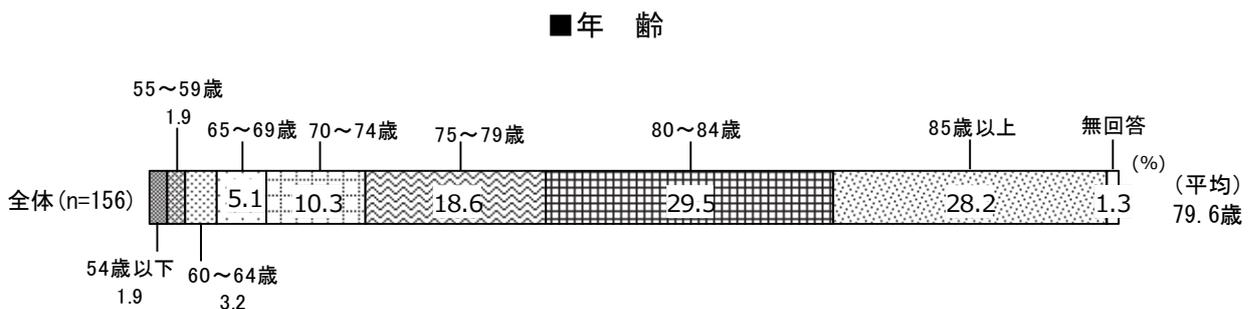
② 性別 (問2)

性別は、「男性」が40.4%、「女性」が59.6%となっている。



③ 年齢 (問3)

年齢は、「80～84歳」(29.5%)が最も多く、「85歳以上」(28.2%)、「75～79歳」(18.6%)と続いている。なお、前期高齢者は15.4%、後期高齢者は76.3%、平均79.6歳となっている。

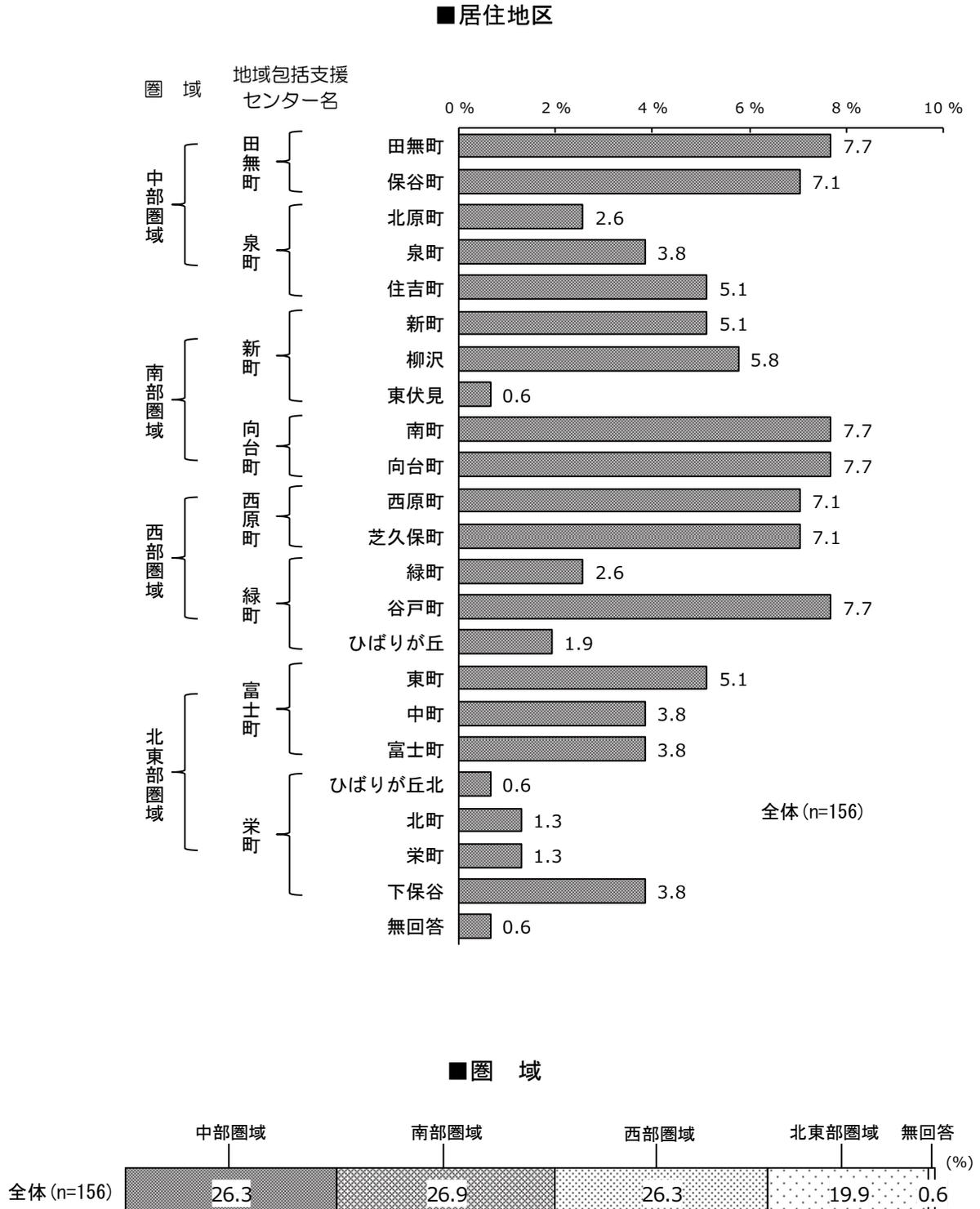


第2章 各調査の結果

④ 居住地区（問4）

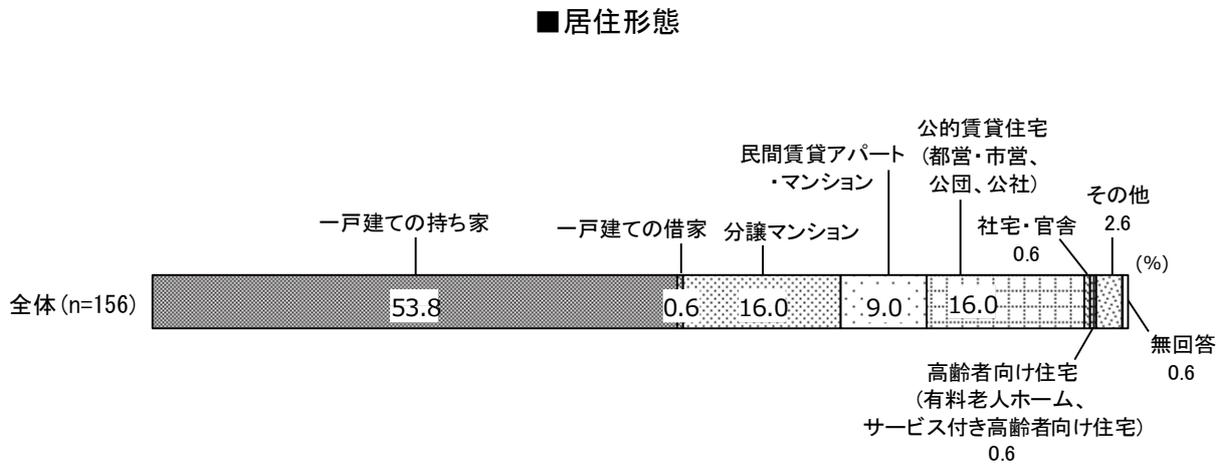
居住地区は、「田無町」「南町」「向台町」「谷戸町」（いずれも7.7%）が多くなっている。

圏域別にみると、「南部圏域」（26.9%）が最も多く、「中部圏域」「西部圏域」（ともに26.3%）、「北東部圏域」（19.9%）と続いている。



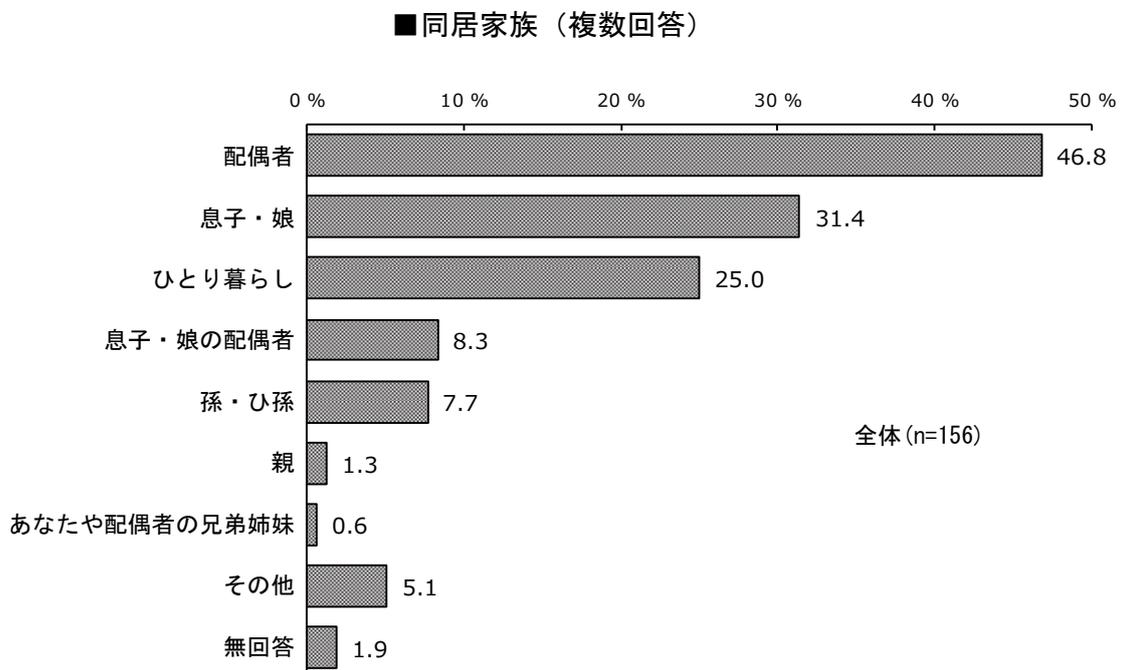
⑤ 居住形態（問5）

居住形態は、「一戸建ての持ち家」（53.8%）が最も多く、次いで「分譲マンション」「公的賃貸住宅（都営・市営、公団、公社）」（ともに16.0%）が多くなっている。



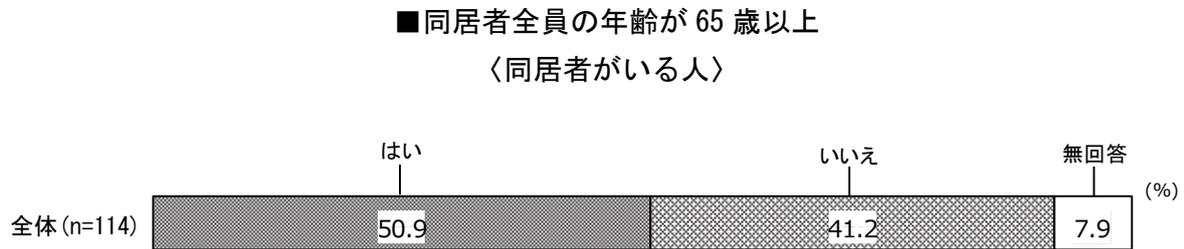
⑥ 同居家族（問6）

同居家族は、「配偶者」（46.8%）が最も多く、「息子・娘」（31.4%）、「ひとり暮らし」（25.0%）と続いている。



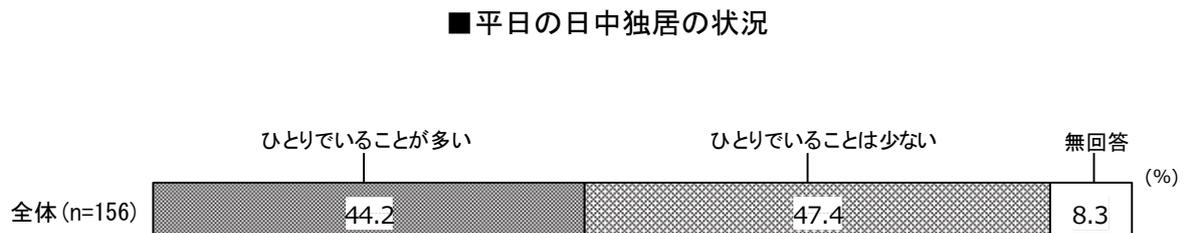
⑦ 同居者全員の年齢が65歳以上（問6付問）

同居者がいる人（問6で「ひとり暮らし」以外に回答した人）の同居者全員の年齢が65歳以上という回答は、「はい」が50.9%、「いいえ」が41.2%となっている。



⑧ 平日の日中独居の状況（問7）

平日の日中独居の状況は、「ひとりであることが多い」が44.2%、「ひとりであることは少ない」が47.4%となっている。



(2) 日ごろの生活

① 日常生活で困っていることの有無（問8）

日常生活で困っていることの有無は、「ある」が 61.5%、「ない」が 32.1%となっている。

■ 日常生活で困っていることの有無



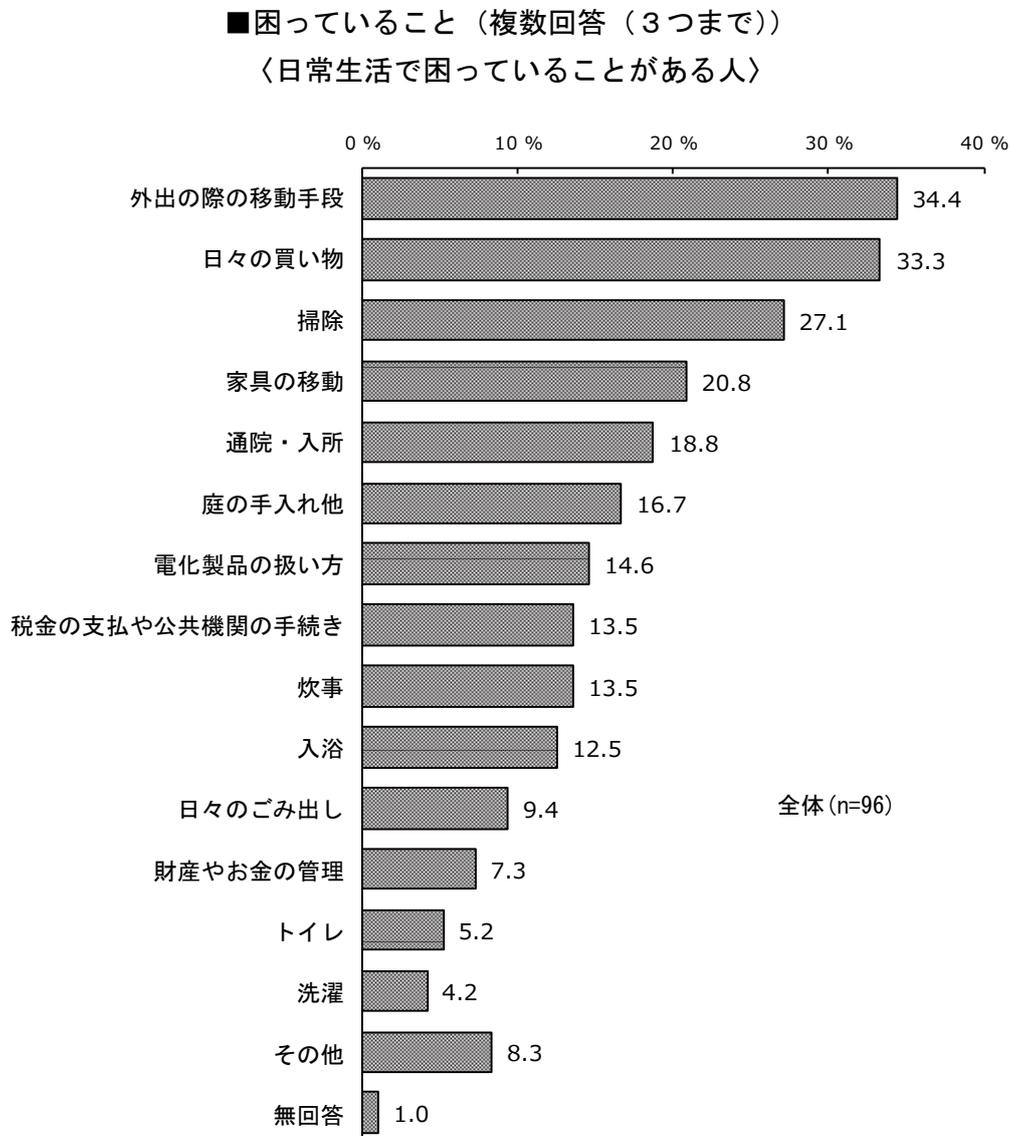
平成 25 年度調査と比較すると、「ある」が 10.0 ポイント増加している。

■ 【前回比較】 日常生活で困っていることの有無

		(%)		
		ある	ない	無回答
平成28年度調査	(n=156)	61.5	32.1	6.4
平成25年度調査	(n=260)	51.5	31.2	17.3

② 困っていること（問8付問）

困りごとがあった人（問8で「ある」と回答した人）の日常生活での困りごとの内容は、「外出の際の移動手段」（34.4%）が最も多く、「日々の買い物」（33.3%）、「掃除」（27.1%）と続いている。



6. 介護保険サービス未利用者調査

平成25年度調査と比較すると、「電化製品の扱い方」は8.6ポイント、「掃除」は6.2ポイント増加し、「外出の際の移動手段」は10.4ポイント、「税金の支払や公共機関の手続き」は5.2ポイント減少している。

■【前回比較】困っていること（複数回答（3つまで））

〈日常生活で困っていることがある人〉

	段 外 出の 際 の 移 動 手 段	日 々 の 買 い 物	掃 除	家 具 の 移 動	通 院 ・ 入 所	庭 の 手 入 れ 他	電 化 製 品 の 扱 い 方	機 関 の 手 続 き や 公 共	税 金 の 支 払 や 公 共
平成28年度調査 (n=96)	34.4	33.3	27.1	20.8	18.8	16.7	14.6	13.5	
平成25年度調査 (n=134)	44.8	33.6	20.9	19.4	15.7	16.4	6.0	18.7	

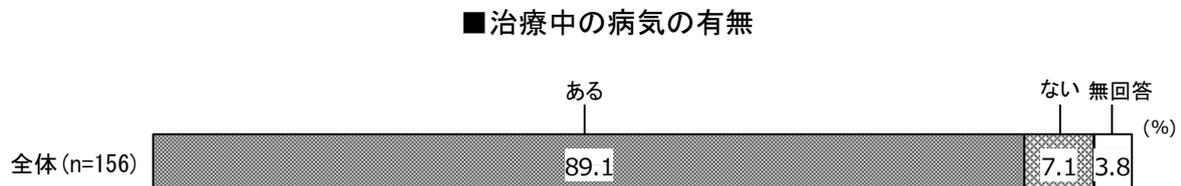
(%)

	炊 事	入 浴	し 日 々 の ご み 出	管 財 産 や お 金 の	ト イ レ	洗 濯	そ の 他	無 回 答
平成28年度調査 (n=96)	13.5	12.5	9.4	7.3	5.2	4.2	8.3	1.0
平成25年度調査 (n=134)	9.7	15.7	9.7	9.0	6.0	5.2	8.2	3.0

(3) 医療の状況

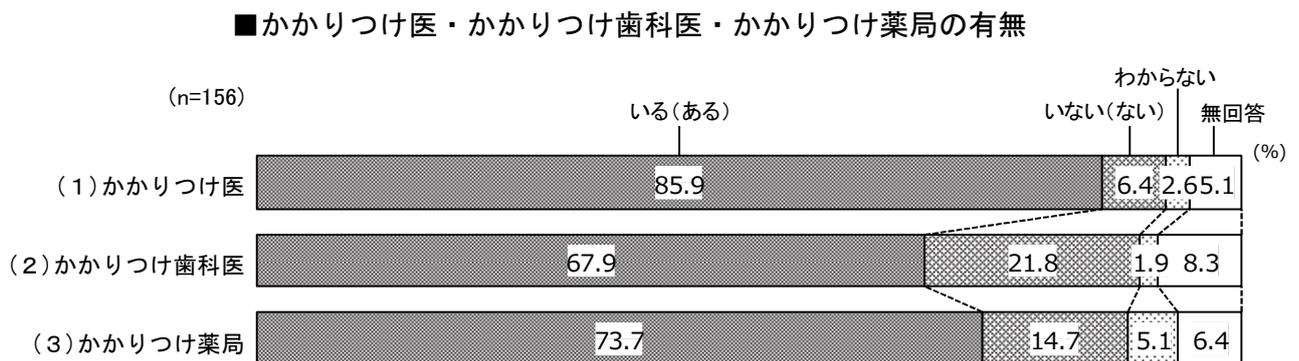
① 治療中の病気の有無 (問9)

治療中の病気の有無は、「ある」が89.1%、「ない」が7.1%となっている。



② かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の有無 (問10)

かかりつけ医が「いる」は85.9%、かかりつけ歯科医が「いる」は67.9%、かかりつけ薬局が「ある」は73.7%となっている。



平成25年度調査と比較すると、かかりつけ歯科医が「いる」は7.9ポイント増加し、「いない」は8.6ポイント減少している。なお、かかりつけ医が「いる」は微減、かかりつけ薬局が「ある」は微増となっている。

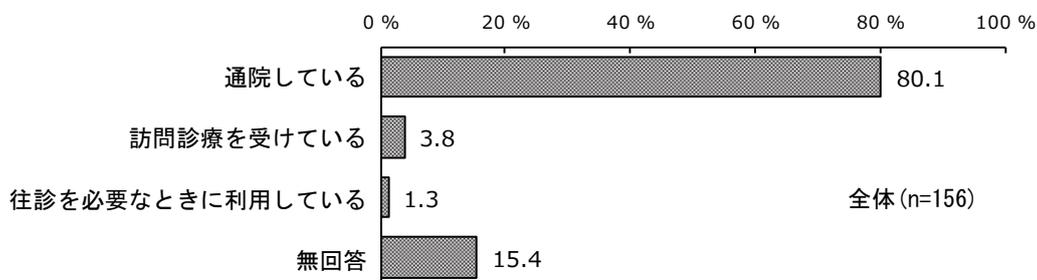
■【前回比較】かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の有無

		(%)			
		(い ある)	(い ない)	わ か ら な い	無 回 答
かかりつけ医	平成28年度調査 (n=156)	85.9	6.4	2.6	5.1
	平成25年度調査 (n=260)	88.1	6.2	1.9	3.8
かかりつけ歯科医	平成28年度調査 (n=156)	67.9	21.8	1.9	8.3
	平成25年度調査 (n=260)	60.0	30.4	0.8	8.8
かかりつけ薬局	平成28年度調査 (n=156)	73.7	14.7	5.1	6.4
	平成25年度調査 (n=260)	70.8	16.9	3.8	8.5

③ 医療の受診形態（問11）

医療の受診形態は、「通院している」が80.1%と多くなっており、「訪問診療を受けている」は3.8%、「往診を必要なときに利用している」は1.3%となっている。

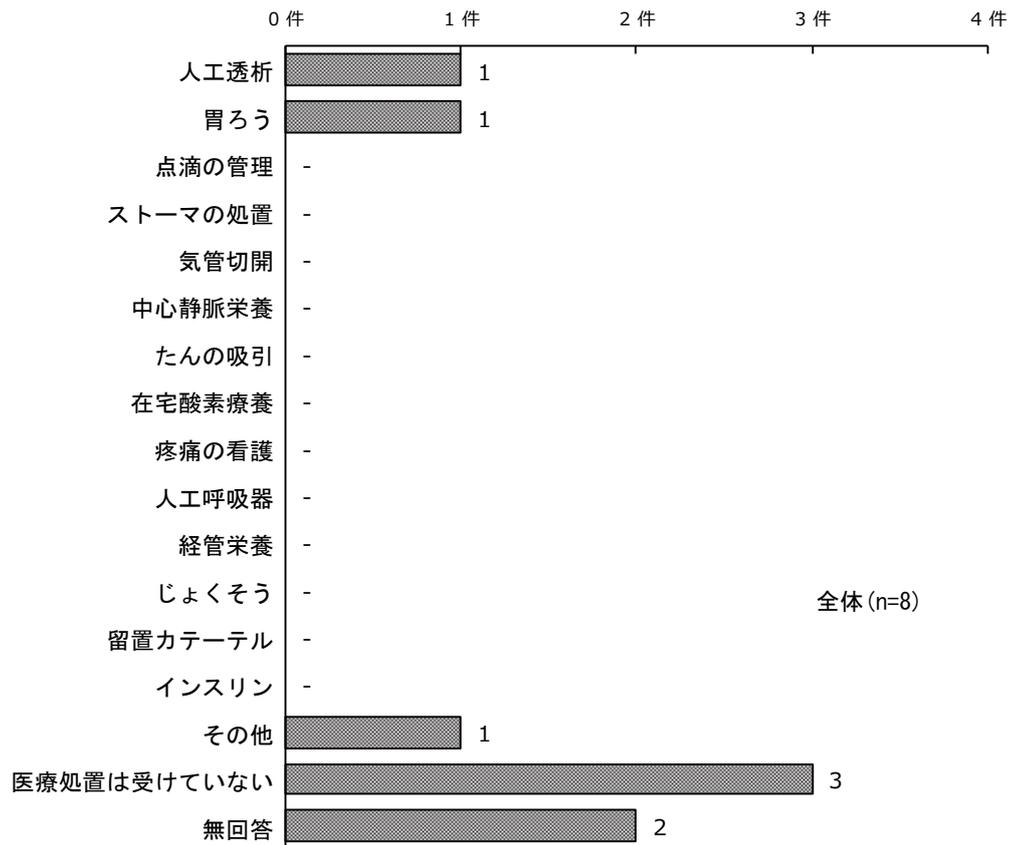
■医療の受診形態（複数回答）



④ 受けている医療処置（問11付問1）

自宅訪問による診療を受けている人（問11で「訪問診療を受けている」「往診を必要
なときに利用している」と回答した人）の医療処置は、「医療処置は受けていない」（3
件）が最も多く、「人工透析」「胃ろう」「その他」がいずれも1件となっている。

■受けている医療処置（複数回答）
〈自宅訪問による診療を受けている人〉

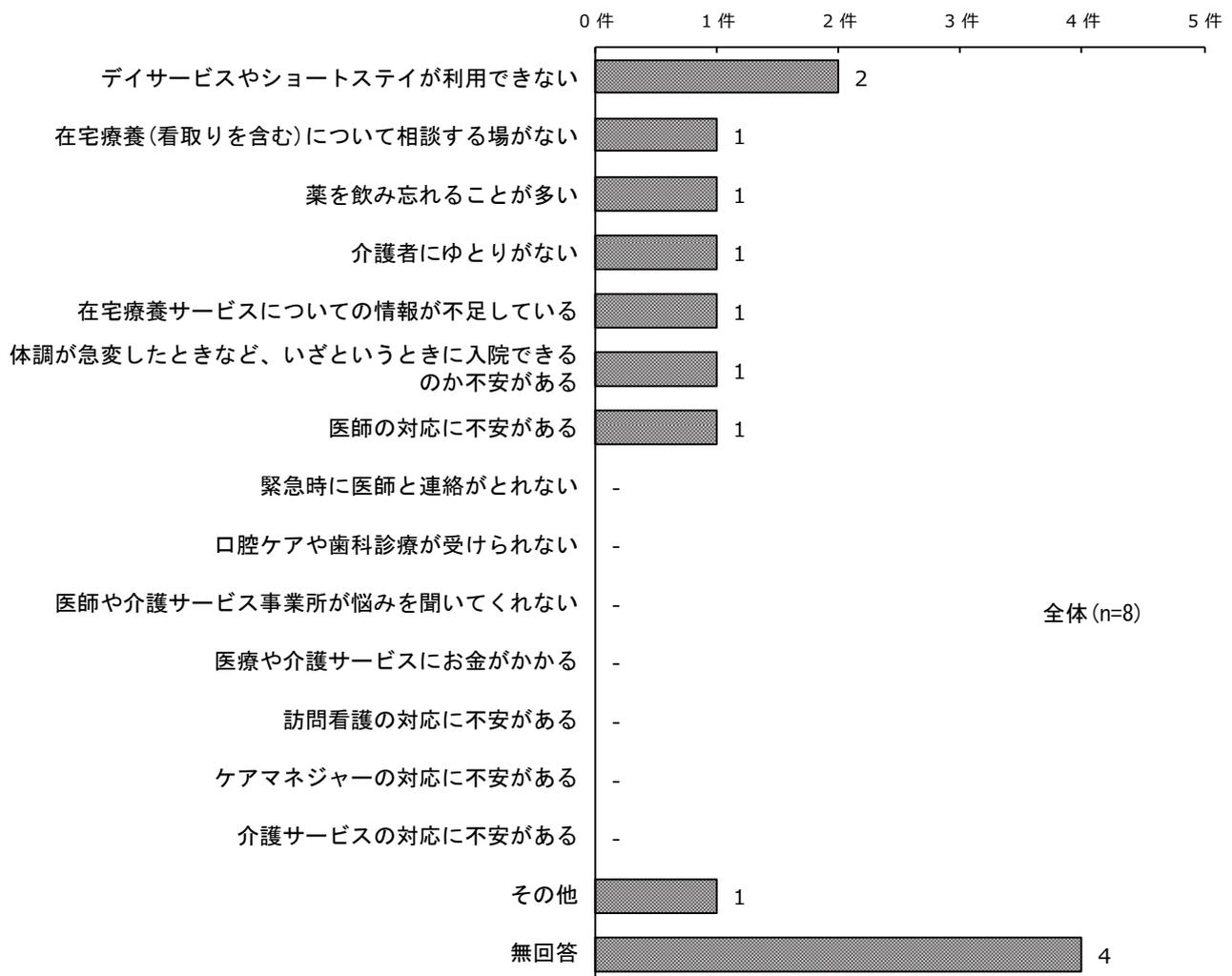


⑤ 在宅療養を送るうえで困っていること（問11付問2）

自宅訪問による診療を受けている人（問11で「訪問診療を受けている」「往診を必要なきに利用している」と回答した人）の在宅療養を送るうえで困っていることは、「デイサービスやショートステイが利用できない」が2件となっている。

■在宅療養を送るうえで困っていること（複数回答）

〈自宅訪問による診療を受けている人〉



⑥ 「在宅療養後方支援病床確保事業」の認知度（問12（1））

「在宅療養後方支援病床確保事業」の認知度は、「はじめて聞いた」（69.2%）が最も多く、「名称は聞いたことがある」（18.6%）、「名称も内容も知っている」（3.8%）と続いている。

■「在宅療養後方支援病床確保事業」の認知度



⑦ 在宅療養実現のための取り組みの推進（問12（2））

在宅療養実現のための取り組みの推進は、「進めるべきである」（59.0%）が最も多く、次いで「わからない」（29.5%）が多くなっている。

■在宅療養実現のための取り組みの推進



⑧ 在宅療養実現のための取り組みを進めるべきでないと思う理由（問12付問）

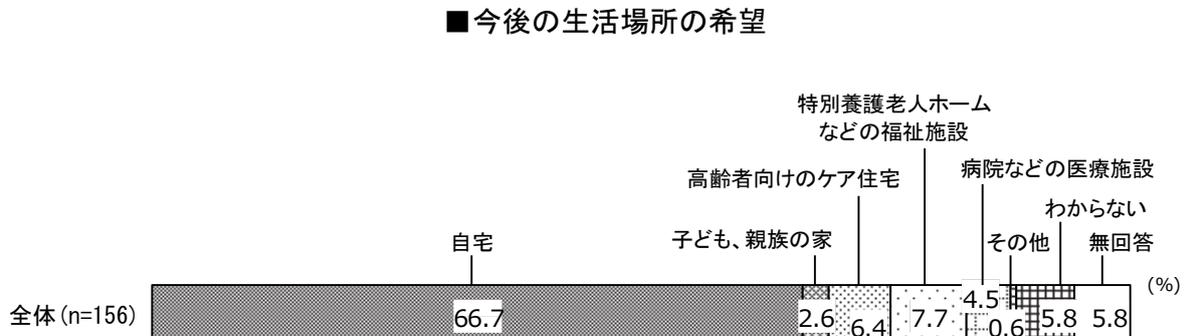
在宅療養実現のための取り組みを進めるべきでないと思う理由を自由記述形式でうかがった。回答は、以下の1件となっている。

- ・在宅療養のための費用が高額だから。

(4) 今後の希望

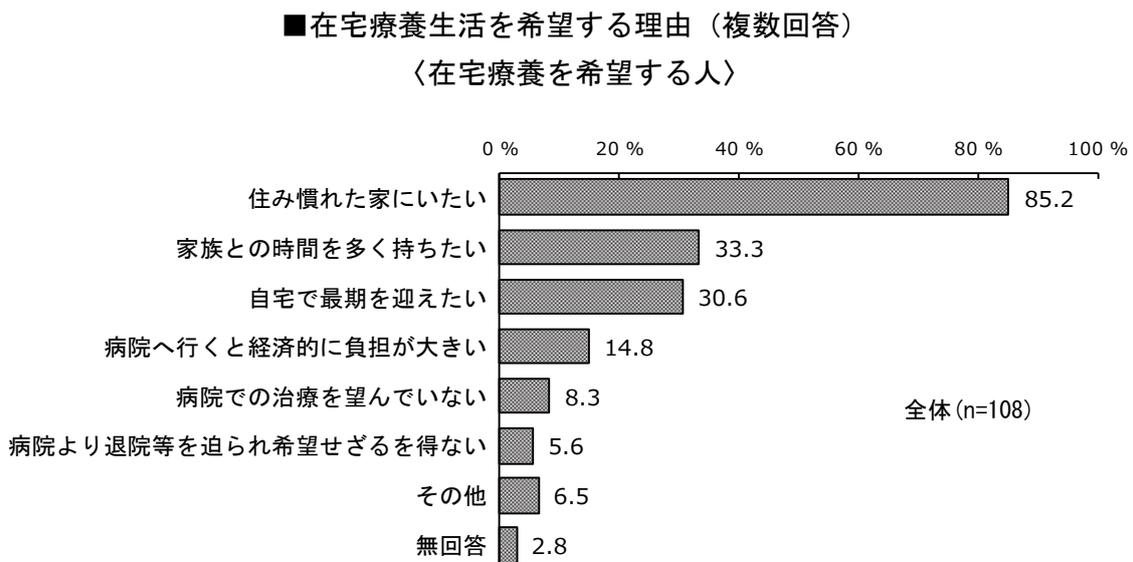
① 今後の生活場所の希望 (問 13)

今後の生活場所の希望は、「自宅」が 66.7%を占めており、「特別養護老人ホームなどの福祉施設」が 7.7%で続いている。



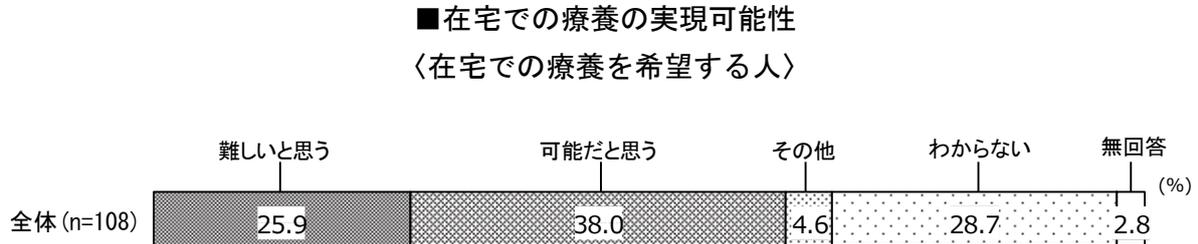
② 在宅療養生活を希望する理由 (問 13 付問 1)

在宅療養を希望する人 (問 13 で「自宅」「子ども、親族の家」と回答した人) の理由は、「住み慣れた家にいたい」(85.2%) が最も多く、「家族との時間を多く持ちたい」(33.3%)、「自宅で最期を迎えたい」(30.6%) と続いている。



③ 在宅での療養の実現可能性（問13付問2）

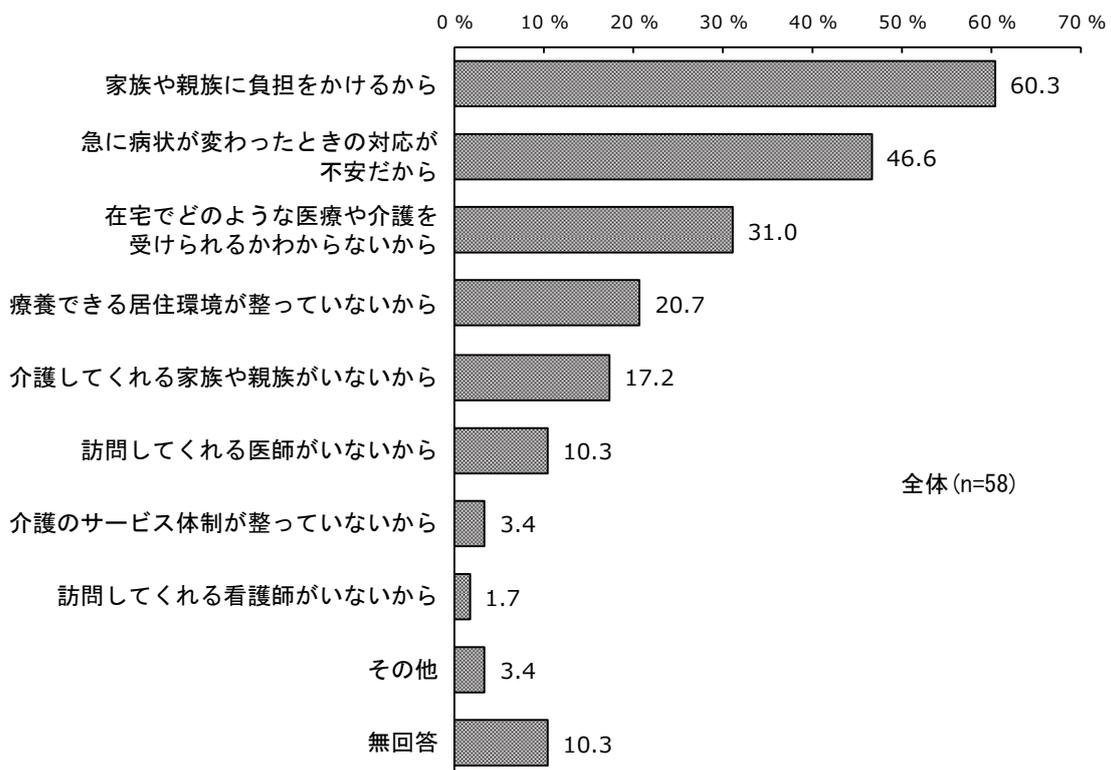
在宅での療養を希望する人（問13で「自宅」「子ども、親族の家」と回答した人）の実現可能性は、「可能だと思う」（38.0%）が最も多く、「わからない」（28.7%）、「難しいと思う」（25.9%）と続いている。



④ 在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（問13付問3）

在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う人（問13で「高齢者向けのケア住宅」「特別養護老人ホームなどの福祉施設」「病院などの医療施設」「その他」、問13付問2で「難しいと思う」と回答した人）の理由は、「家族や親族に負担をかけるから」（60.3%）が最も多く、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（46.6%）、「在宅でどのような医療や介護を受けられるかわからないから」（31.0%）と続いている。

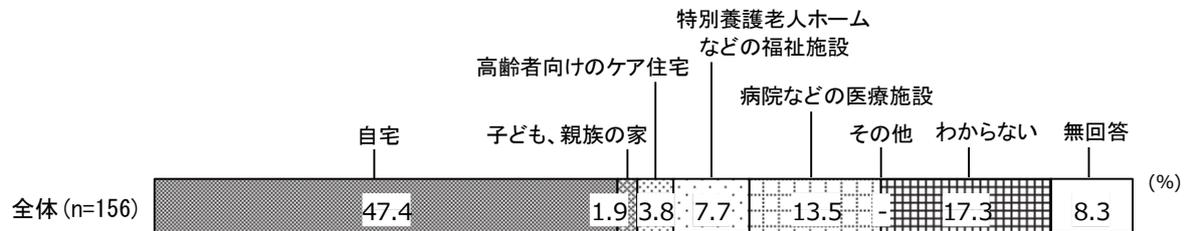
■在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（複数回答（3つまで））
〈在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う人〉



⑤ 最期を迎えたい場所の希望（問 14）

最期を迎えたい場所の希望は、「自宅」（47.4%）が最も多く、「わからない」（17.3%）、
「病院などの医療施設」（13.5%）と続いている。

■最期を迎えたい場所の希望



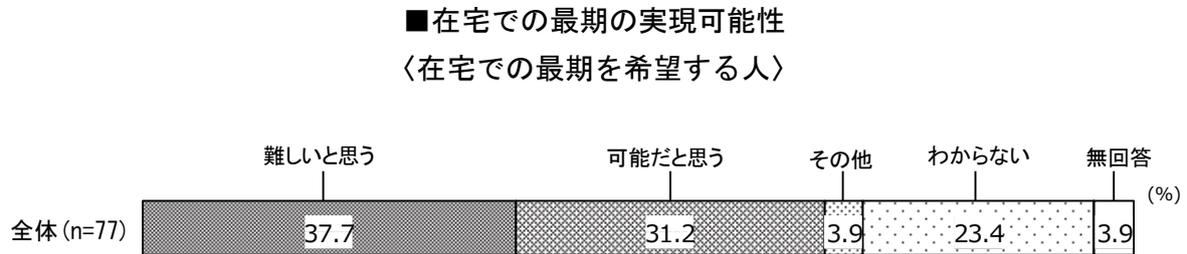
要介護度別にみると、要介護5を除き、いずれも「自宅」が最も多くなっており、要支援2と要介護1では「病院などの医療施設」「特別養護老人ホームなどの福祉施設」などの回答もみられる。

■【要介護度別】最期を迎えたい場所の希望

	自宅	子ども、親族の家	高齢者向けのケア住宅	特別養護老人ホームなどの福祉施設	病院などの医療施設	その他	わからない	無回答
全体 (n=156)	47.4	1.9	3.8	7.7	13.5	-	17.3	8.3
要支援1 (n=48)	52.1	2.1	6.3	4.2	12.5	-	20.8	2.1
要支援2 (n=24)	33.3	4.2	8.3	12.5	20.8	-	16.7	4.2
要介護1 (n=33)	51.5	-	-	15.2	21.2	-	9.1	3.0
要介護2 (n=15)	46.7	6.7	-	-	6.7	-	33.3	6.7
要介護3 (n=6)	50.0	-	16.7	-	33.3	-	-	-
要介護4 (n=8)	87.5	-	-	-	-	-	12.5	-
要介護5 (n=6)	16.7	-	-	16.7	-	-	33.3	33.3
無回答 (n=16)	37.5	-	-	6.3	-	-	12.5	43.8

⑥ 在宅での最期の実現可能性（問14付問1）

在宅での最期を希望する人（問14で「自宅」「子ども、親族の家」と回答した人）の実現可能性は、「難しいと思う」（37.7%）が最も多く、「可能だと思う」（31.2%）、「わからない」（23.4%）と続いている。



要介護度別にみると、要支援1と要支援2は「可能だと思う」が多く、要介護1以上は「難しいと思う」が多い傾向がみられる。

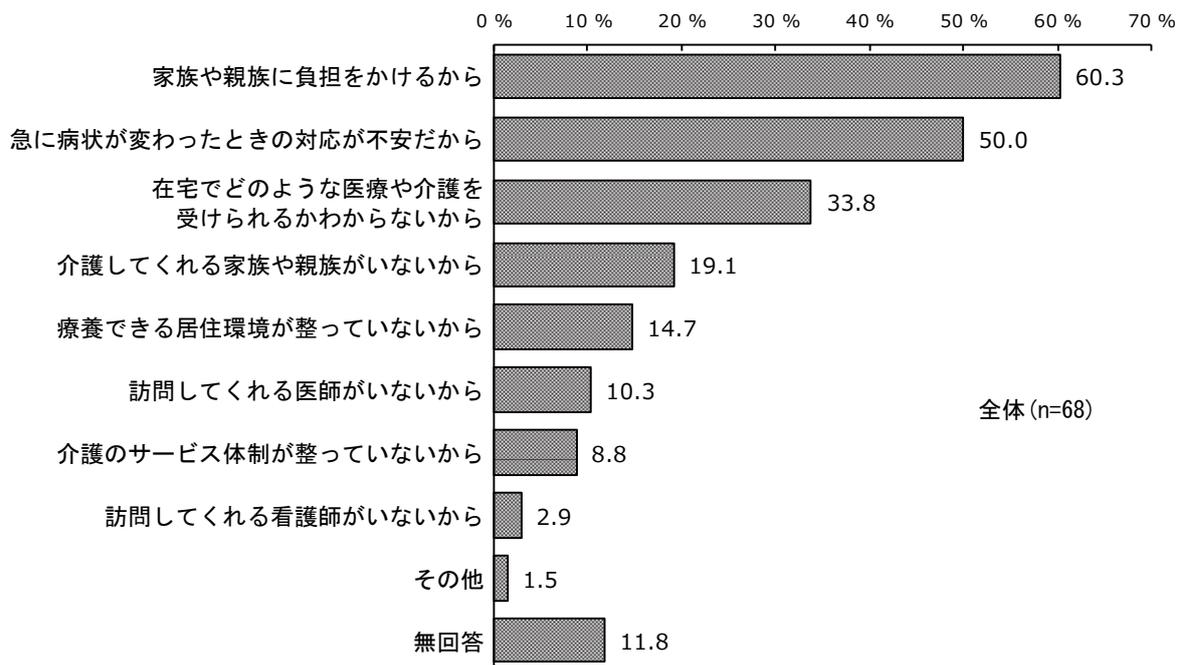
■【要介護度別】在宅での最期の実現可能性
〈在宅での最期を希望する人〉

	難しいと思う	可能だと思う	その他	わからない	無回答
全体 (n=77)	37.7	31.2	3.9	23.4	3.9
要支援1 (n=26)	19.2	34.6	11.5	34.6	-
要支援2 (n=9)	11.1	55.6	-	33.3	-
要介護1 (n=17)	64.7	11.8	-	11.8	11.8
要介護2 (n=8)	62.5	25.0	-	12.5	-
要介護3 (n=3)	33.3	-	-	66.7	-
要介護4 (n=7)	42.9	28.6	-	14.3	14.3
要介護5 (n=1)	100.0	-	-	-	-
無回答 (n=6)	33.3	66.7	-	-	-

⑦ 在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（問 14 付問 2）

在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う人（問 14 で「高齢者向けのケア住宅」「特別養護老人ホームなどの福祉施設」「病院などの医療施設」「その他」、問 14 付問 1 で「難しいと思う」と回答した人）の理由は、「家族や親族に負担をかけるから」（60.3%）が最も多く、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（50.0%）、「在宅でどのような医療や介護を受けられるかわからないから」（33.8%）と続いている。

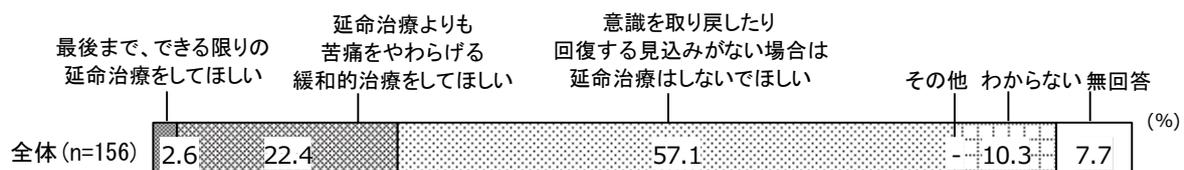
■在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（複数回答（3つまで））



⑧ 延命治療についての希望（問 15）

延命治療についての希望は、「意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は延命治療はしないでほしい」（57.1%）が最も多く、次いで「延命治療よりも苦痛をやわらげる緩和的治療をしてほしい」（22.4%）が多くなっている。

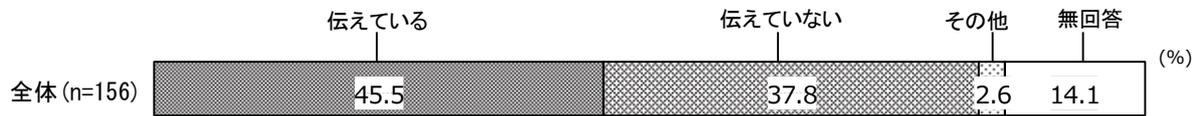
■延命治療についての希望



⑨ 長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無（問16）

長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無は、「伝えている」が45.5%、「伝えていない」が37.8%となっている。

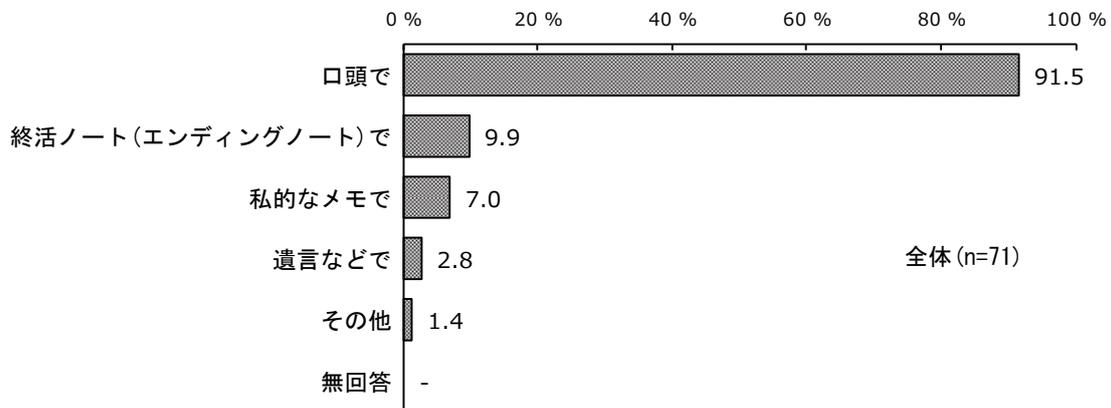
■長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無



⑩ 長期療養、終末期、延命治療についての意向の伝え方（問16付問1）

長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えている人（問16で「伝えている」と回答した人）の伝え方は、「口頭で」（91.5%）が最も多く、「終活ノート（エンディングノート）」で」は9.9%、「私的なメモで」は7.0%となっている。

■長期療養、終末期、延命治療についての意向の伝え方（複数回答）
 〈長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えている人〉

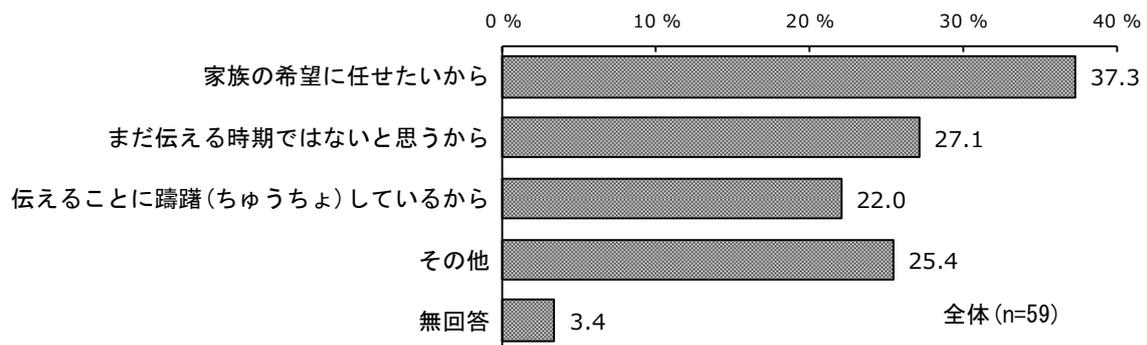


⑪ 長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない理由（問16付問2）

長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない人（問16で「伝えていない」と回答した人）の理由は、「家族の希望に任せたいから」（37.3%）が最も多く、「まだ伝える時期ではないと思うから」（27.1%）と続いている。

■長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない理由（複数回答）

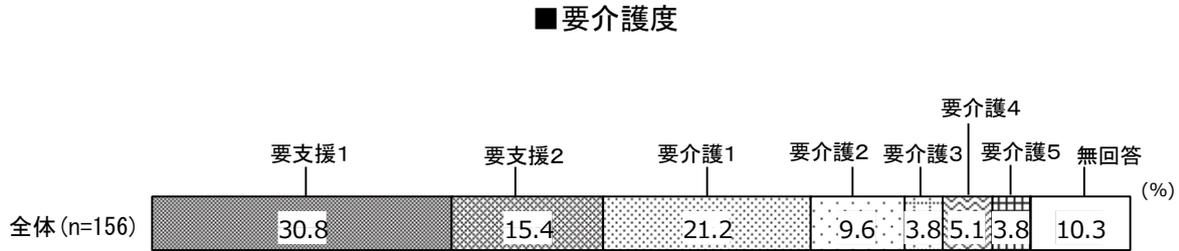
〈長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない人〉



(5) 介護保険サービスの利用

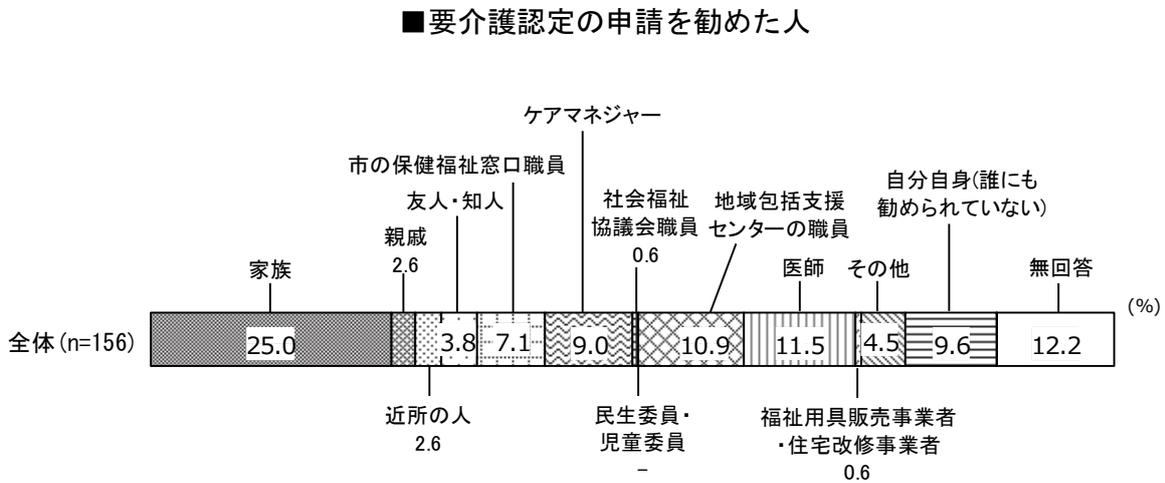
① 要介護度 (問17)

要介護度は、「要支援1」(30.8%)が最も多く、「要介護1」(21.2%)、「要支援2」(15.4%)、「要介護2」(9.6%)と続いている。



② 要介護認定の申請を勧めた人 (問18)

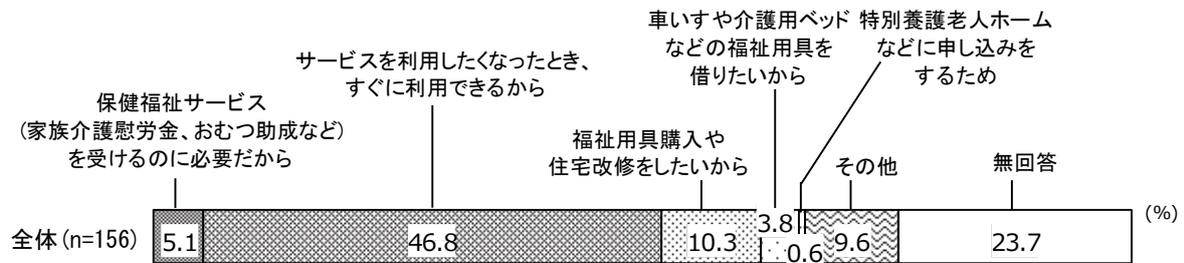
要介護認定の申請を勧めた人は、「家族」(25.0%)が最も多く、「医師」(11.5%)、「地域包括支援センターの職員」(10.9%)と続いている。



③ 要介護認定を申請した理由（問 19）

要介護認定を申請した理由は、「サービスを利用しなくなったとき、すぐに利用できるから」(46.8%)が最も多く、次いで「福祉用具購入や住宅改修をしたいから」(10.3%)が多くなっている。

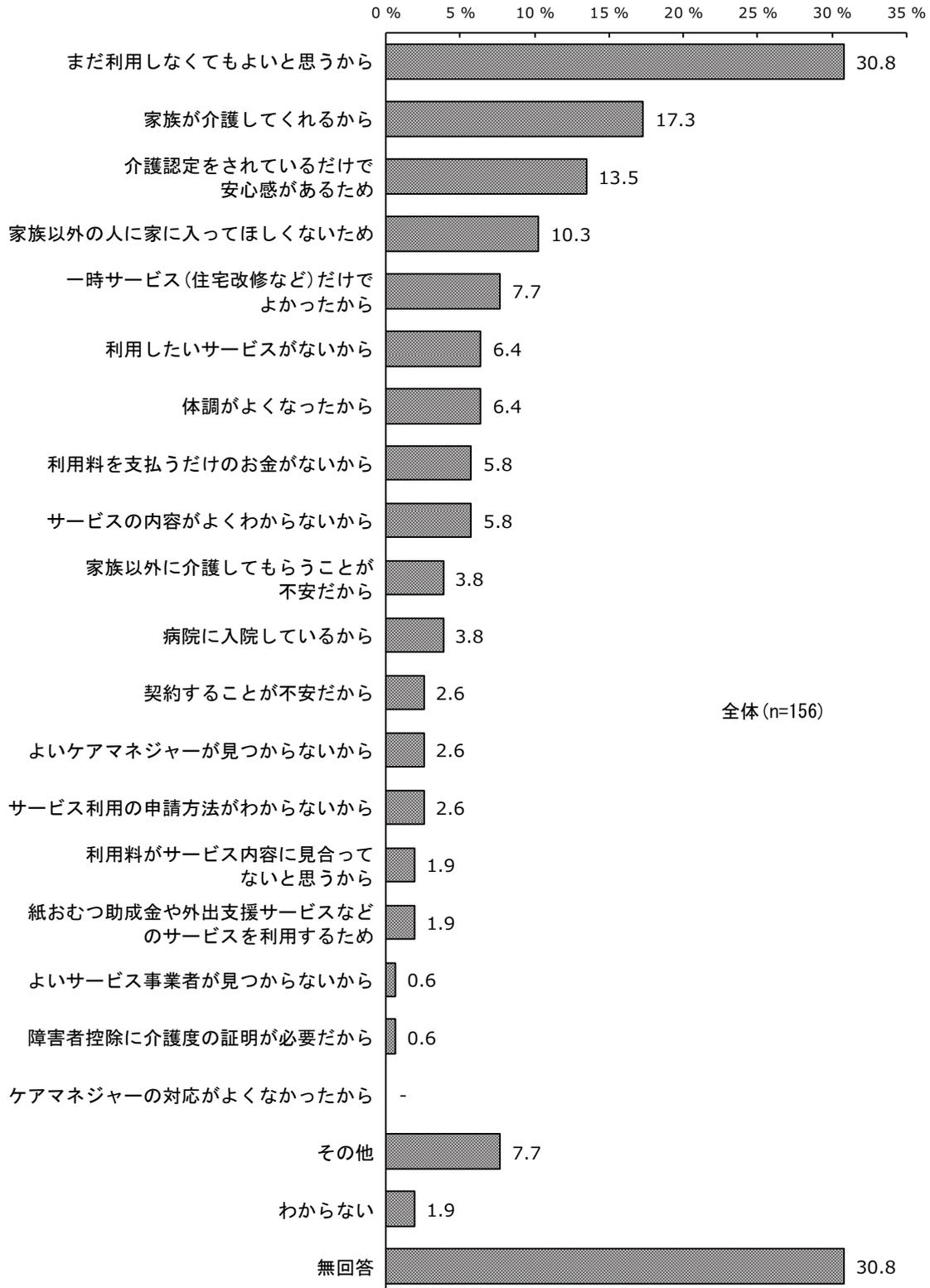
■要介護認定を申請した理由



④ 介護保険サービスを利用していない理由（問20）

介護保険サービスを利用していない理由は、「まだ利用しなくてもよいと思うから」（30.8%）が最も多く、「家族が介護してくれるから」（17.3%）、「介護認定をされているだけで安心感があるため」（13.5%）と続いている。

■介護保険サービスを利用していない理由（複数回答）



6. 介護保険サービス未利用者調査

要介護度別にみると、要支援1から要介護1は「まだ利用しなくてもよいと思うから」、要介護2から要介護4は「家族が介護してくれるから」、介護5は「病院に入院しているから」がそれぞれ最も多くなっている。

■【要介護度別】介護保険サービスを利用していない理由（複数回答）

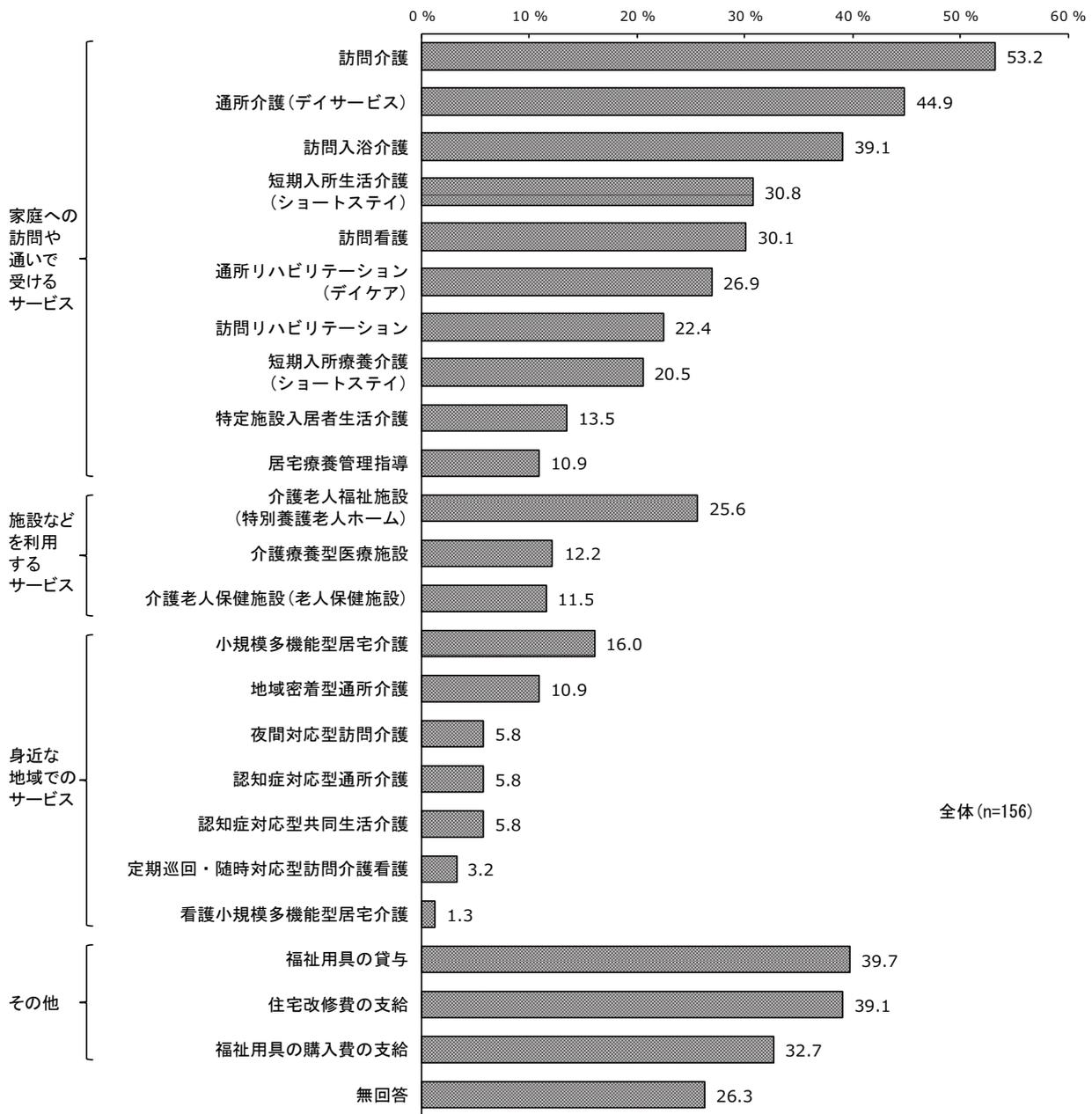
	とまだ利用しなくてもよいと思うから	ら家族が介護してくれるか	け介護認定をされていながら安心感があるため	て家族以外の人に家に入っ	らなど一時サービス（住宅改修）でよかつたか	い利用したいサービスがない	体調がよくなつたから	金利用料を支払うだけのお金が足りないから	からサービスの内容がよくわからないから	う家族以外に介護してもら	病院に入院しているから
全体 (n=156)	30.8	17.3	13.5	10.3	7.7	6.4	6.4	5.8	5.8	3.8	3.8
要支援1 (n=48)	41.7	4.2	22.9	16.7	10.4	-	2.1	6.3	8.3	2.1	2.1
要支援2 (n=24)	20.8	4.2	12.5	8.3	8.3	8.3	4.2	12.5	4.2	4.2	-
要介護1 (n=33)	36.4	33.3	15.2	6.1	6.1	15.2	15.2	-	-	-	6.1
要介護2 (n=15)	26.7	33.3	6.7	13.3	6.7	6.7	-	13.3	13.3	13.3	-
要介護3 (n=6)	33.3	50.0	-	-	-	-	16.7	16.7	-	-	-
要介護4 (n=8)	12.5	37.5	-	12.5	12.5	12.5	12.5	-	25.0	12.5	12.5
要介護5 (n=6)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3
無回答 (n=16)	25.0	12.5	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	-	-	6.3	-

	ら契約することが不安だから	つよいケアマネジャーが見	がサービス利用の申請方法	見利用料がサービス内容に	スを利用するたため	紙おむつ助成金や外出支	つよいサービス事業者が見	明障害者控除に介護度の証	よケアマネジャーの対応が	その他	わからない	無回答
全体 (n=156)	2.6	2.6	2.6	1.9	1.9	0.6	0.6	-	-	7.7	1.9	30.8
要支援1 (n=48)	2.1	-	4.2	2.1	2.1	-	2.1	-	-	10.4	2.1	27.1
要支援2 (n=24)	4.2	-	-	-	-	4.2	-	-	-	8.3	-	41.7
要介護1 (n=33)	3.0	9.1	3.0	-	-	-	-	-	-	9.1	3.0	12.1
要介護2 (n=15)	6.7	6.7	6.7	6.7	-	-	-	-	-	-	6.7	26.7
要介護3 (n=6)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3
要介護4 (n=8)	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	25.0	-	12.5
要介護5 (n=6)	-	-	-	-	16.7	-	-	-	-	-	-	66.7
無回答 (n=16)	-	-	-	6.3	-	-	-	-	-	-	-	62.5

⑤ 介護保険サービスの認知状況（問21）

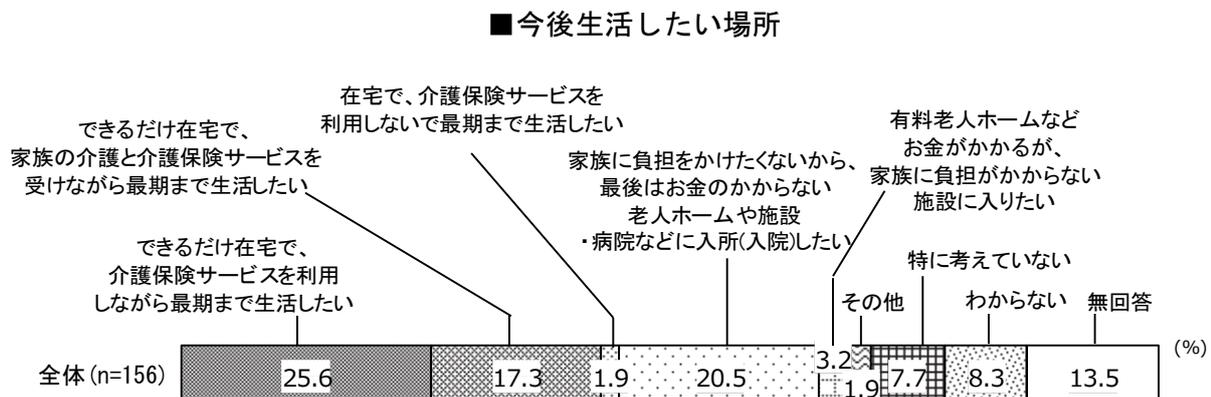
介護保険サービスの認知状況は、「訪問介護」（53.2%）が最も多く、「通所介護（デイサービス）」（44.9%）、「福祉用具の貸与」（39.7%）と続いている。

■介護保険サービスの認知状況（複数回答）



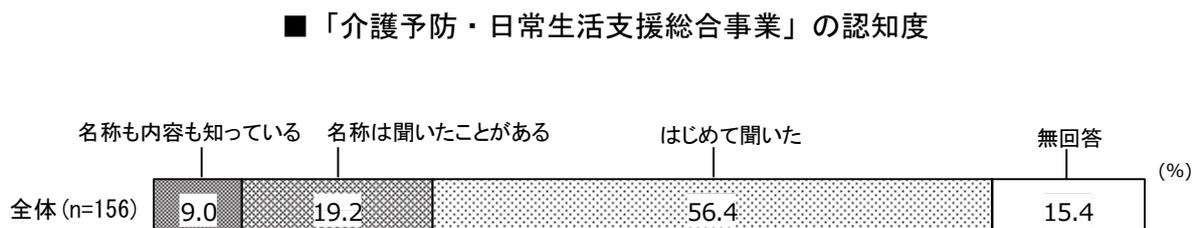
⑥ 今後生活したい場所（問 22）

今後生活したい場所は、「できるだけ在宅で、介護保険サービスを利用しながら最期まで生活したい」（25.6%）が最も多く、「家族に負担をかけたくないから、最後はお金のかからない老人ホームや施設・病院などに入所（入院）したい」（20.5%）、「できるだけ在宅で、家族の介護と介護保険サービスを受けながら最期まで生活したい」（17.3%）と続いている。



⑦ 「介護予防・日常生活支援総合事業」の認知度（問 23）

「介護予防・日常生活支援総合事業」の認知度は、「はじめて聞いた」（56.4%）が最も多く、「名称は聞いたことがある」（19.2%）、「名称も内容も知っている」（9.0%）と続いている。

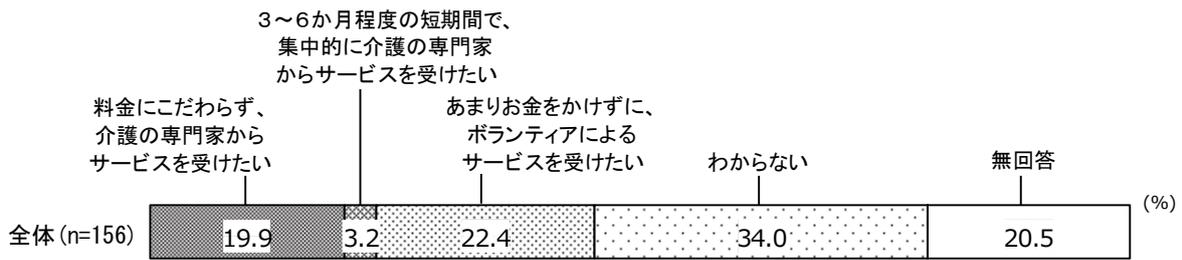


⑧ 家族以外の人から介護や手助けが必要になった場合に受きたいサービス（問 24）

(1) 自宅でトイレやお風呂の介助などの介護を受けるサービス

自宅でトイレやお風呂の介助などの介護を受けるサービスについては、「わからない」(34.0%)が最も多く、「あまりお金をかけずに、ボランティアによるサービスを受けたい」(22.4%)、「料金にこだわらず、介護の専門家からサービスを受けたい」(19.9%)と続いている。

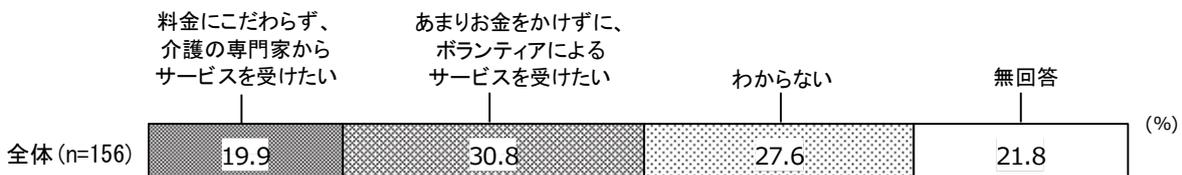
■ 自宅でトイレやお風呂の介助などの介護を受けるサービス



(2) 自宅で掃除・調理・洗濯などを手伝ってもらうサービス

自宅で掃除・調理・洗濯などを手伝ってもらうサービスについては、「あまりお金をかけずに、ボランティアによるサービスを受けたい」(30.8%)が最も多く、「わからない」(27.6%)、「料金にこだわらず、介護の専門家からサービスを受けたい」(19.9%)と続いている。

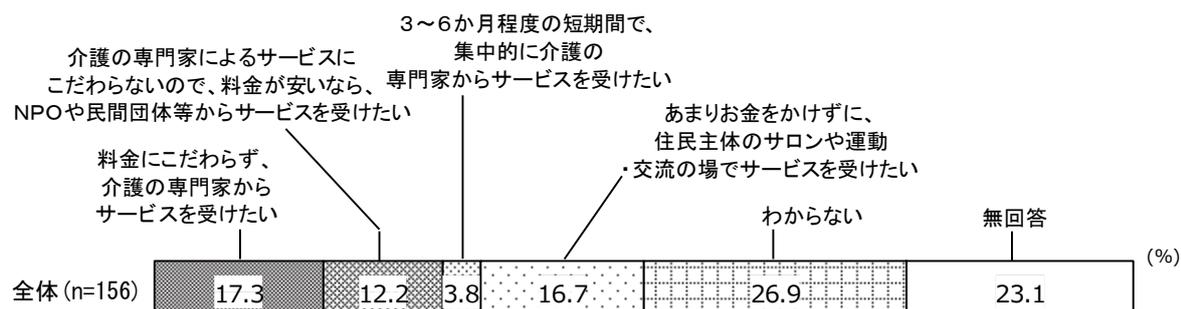
■ 自宅で掃除・調理・洗濯などを手伝ってもらうサービス



(3) デイサービスなどに通い、食事や入浴、衰えた運動能力の回復や口の中のケアなどを行うサービス

デイサービスなどに通い、食事や入浴、衰えた運動能力の回復や口の中のケアなどを行うサービスについては、「わからない」(26.9%)が最も多く、「料金にこだわらず、介護の専門家からサービスを受けたい」(17.3%)、「あまりお金をかけずに、住民主体のサロンや運動・交流の場でサービスを受けたい」(16.7%)と続いている。

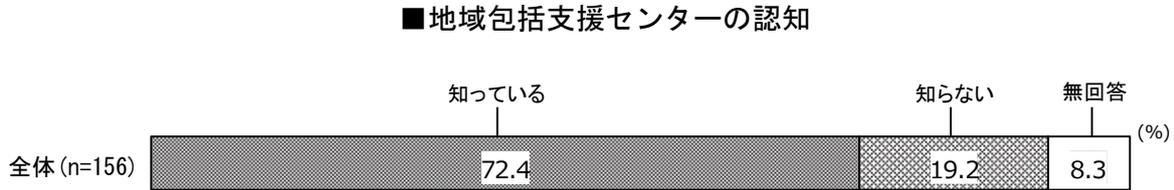
■ デイサービスなどに通い、食事や入浴、衰えた運動能力の回復や口の中のケアなどを行うサービス



(6) 市の介護保険・保健福祉サービス

① 地域包括支援センターの認知 (問 25)

地域包括支援センターの認知は、「知っている」が 72.4%、「知らない」が 19.2%となっている。



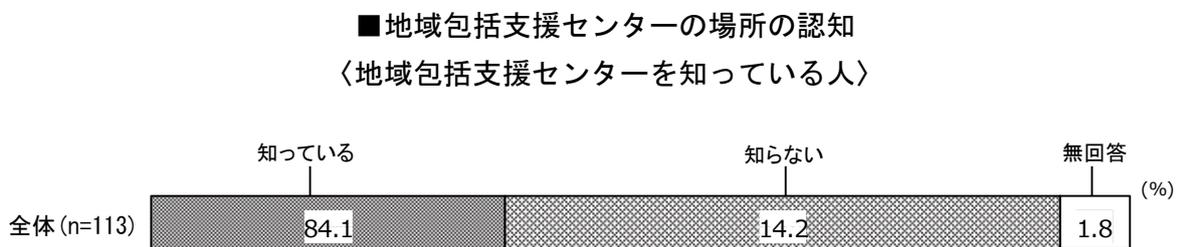
平成 25 年度調査と比較すると、「知っている」「知らない」ともに大きな変化はみられなかった。

■【前回比較】地域包括支援センターの認知

	(%)		
	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
平成28年度調査 (n=156)	72.4	19.2	8.3
平成25年度調査 (n=260)	71.2	18.8	10.0

② 地域包括支援センターの場所の認知 (問 25 付問)

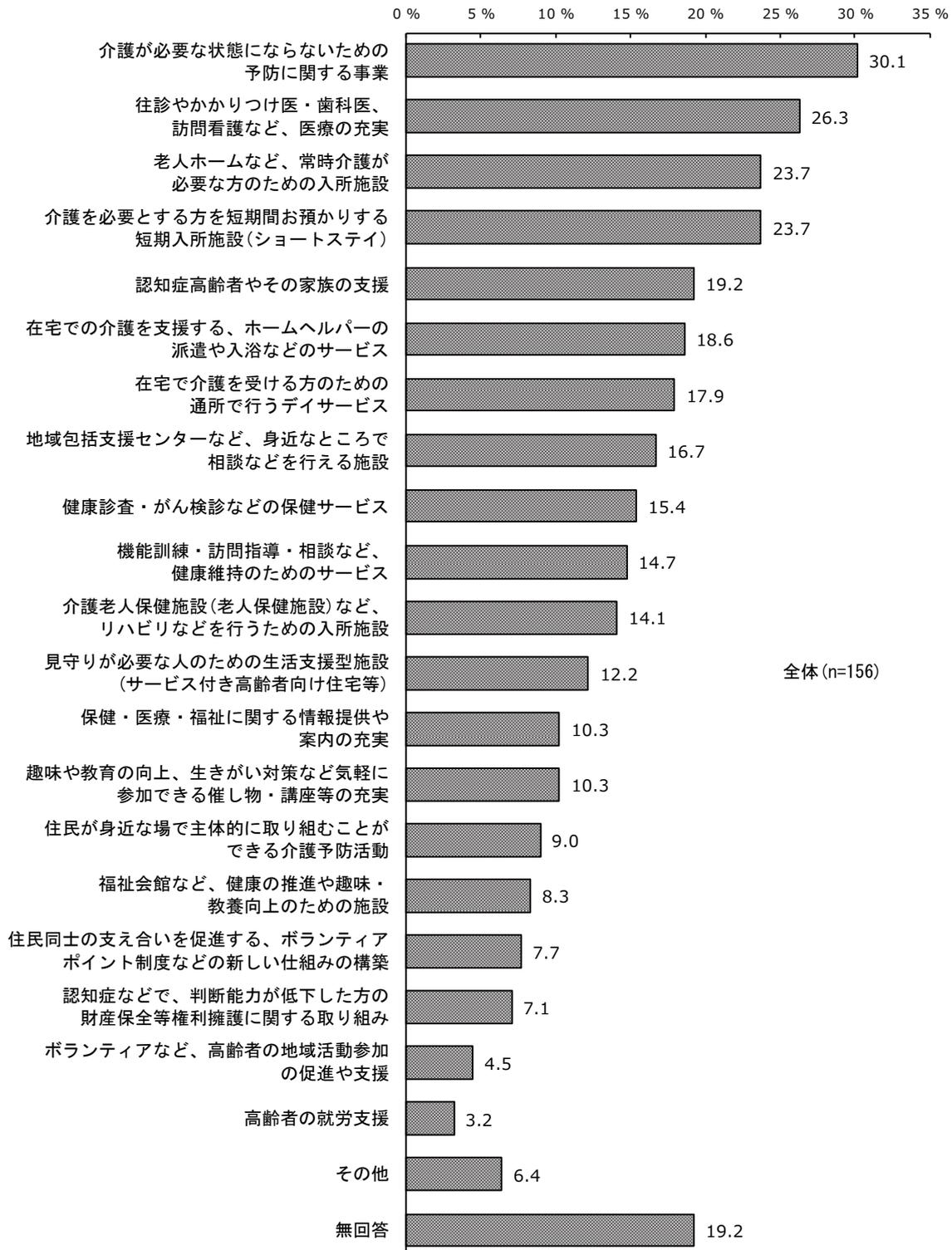
地域包括支援センターを知っている人 (問 25 で「知っている」と回答した人) の場所の認知は、「知っている」が 84.1%、「知らない」が 14.2%となっている。



③ 市が取り組むべき介護保険・保健福祉サービス（問 26）

市が取り組むべき介護保険・保健福祉サービスは、「介護が必要な状態にならないための予防に関する事業」（30.1%）が最も多く、「往診やかかりつけ医・歯科医、訪問看護など、医療の充実」（26.3%）、「老人ホームなど、常時介護が必要な方のための入所施設」「介護を必要とする方を短期間お預かりする短期入所施設（ショートステイ）」（ともに23.7%）と続いている。

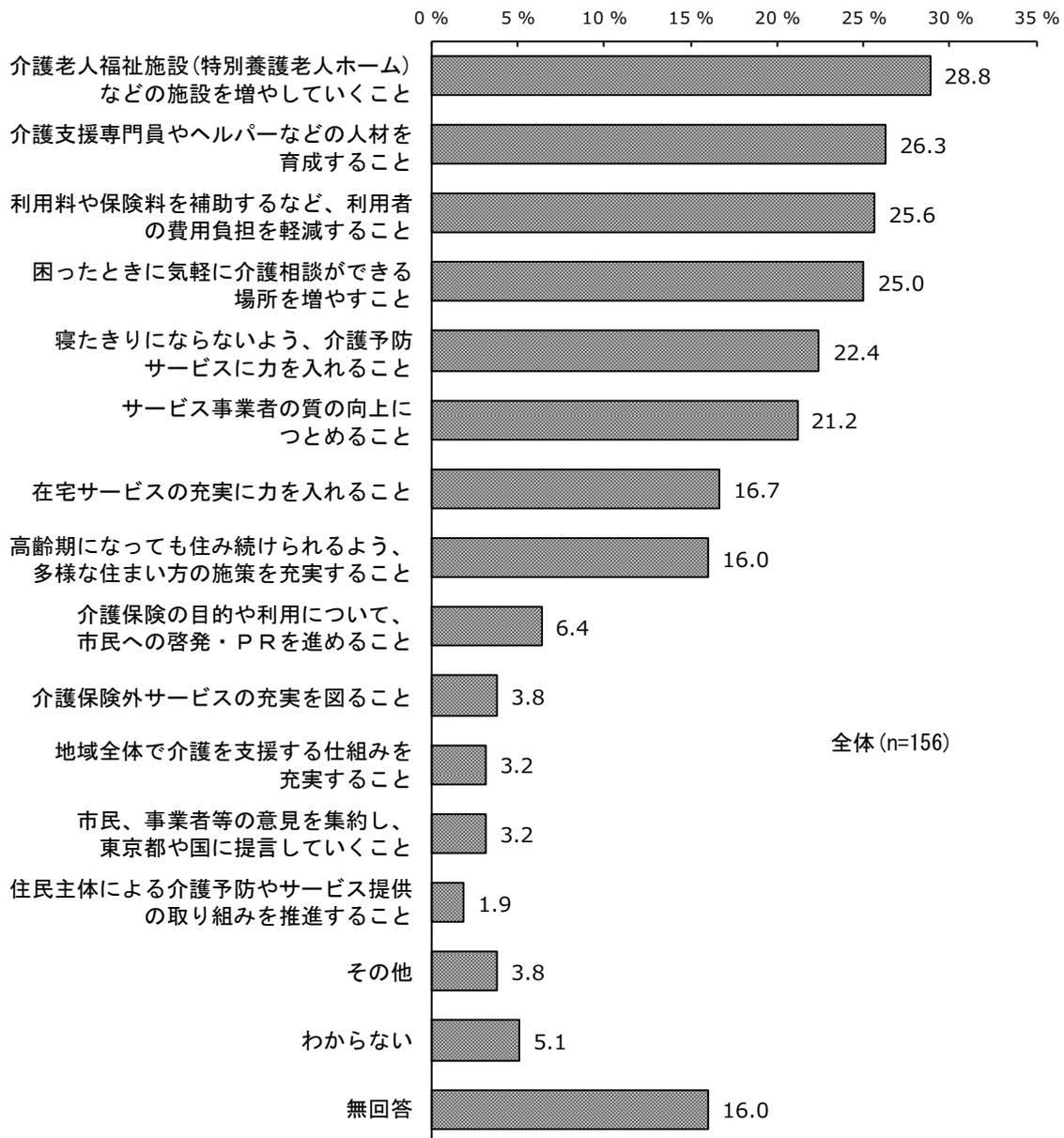
■市が取り組むべき介護保険・保健福祉サービス（複数回答（5つまで））



④ 介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと（問27）

介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきことは、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）などの施設を増やしていくこと」（28.8%）が最も多く、「介護支援専門員やヘルパーなどの人材を育成すること」（26.3%）、「利用料や保険料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減すること」（25.6%）と続いている。

■介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと（複数回答（3つまで））



⑤ 高齢者保健福祉サービス、介護保険制度への意見・要望（問 28）

高齢者保健福祉サービス、介護保険制度について、自由記述形式でうかがい、内容ごとに分類・整理を行った。主な意見は、以下のとおりとなっている。

◇介護予防事業について

- ・介護予防サービスの事業に力を入れてほしい。
- ・西東京市は、老後への支援事業に力を入れていると感じている。数年前のアンケート結果による指導で警告をいただき、運動、ウォーキングなど始めた。現在は、元気に活動を続けている。
- ・長寿で過ごすため、筋力、体操を 20 年週 1 回続けている。希望者が多く、教室の参加が抽選となっている。楽しい教室がもっとたくさんあればと思う。

◇介護保険サービスについて

- ・年金生活者にとってできる限り金銭的、精神的に負担が軽くなるような介護保険サービスを望む。

◇在宅療養生活について

- ・在宅医療が可能なのはほんの少しの人だと思う。認知症になったとしても、最後は特養に入りたい。

◇情報提供について

- ・保健福祉サービス、介護保険制度の仕組みや手続きなどが複雑過ぎてなかなか理解しにくい。

◇手続きについて

- ・助成の申請や、平日役所へ行かなければならないのが負担。インターネットなどで申請ができるようにしてほしい。

◇相談について

- ・日曜・祝日に相談できる窓口があればいいと思う。

◇施設について

- ・動けなくなったとき、特養に入所できるよう、施設を増やしていくことに力を入れてほしい。

(7) 介護者の状況

① 介護者の有無 (問 29)

介護者の有無は、「いる」が50.6%、「いない」が21.8%となっている。



※以下問 30～39 は、問 29 で介護者が「いる」(79 人) と回答した場合、宛名ご本人を介護している人にたずねている。

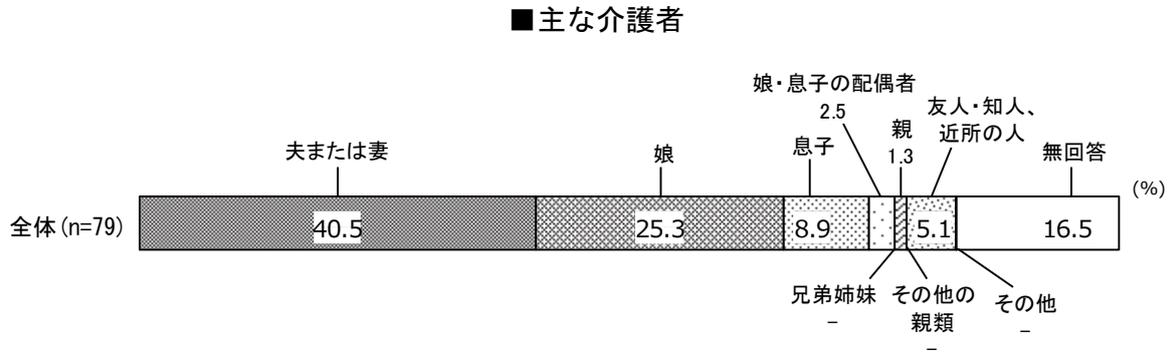
② 主な介護者の性別 (問 30)

主な介護者の性別は、「男性」が26.6%、「女性」が55.7%となっている。



③ 主な介護者（問 31）

主な介護者は、「夫または妻」（40.5%）が最も多く、「娘」（25.3%）、「息子」（8.9%）と続いている。



平成 25 年度調査と比較すると、「娘」が 7.9 ポイント増加し、「夫または妻」が 7.3 ポイント減少している。

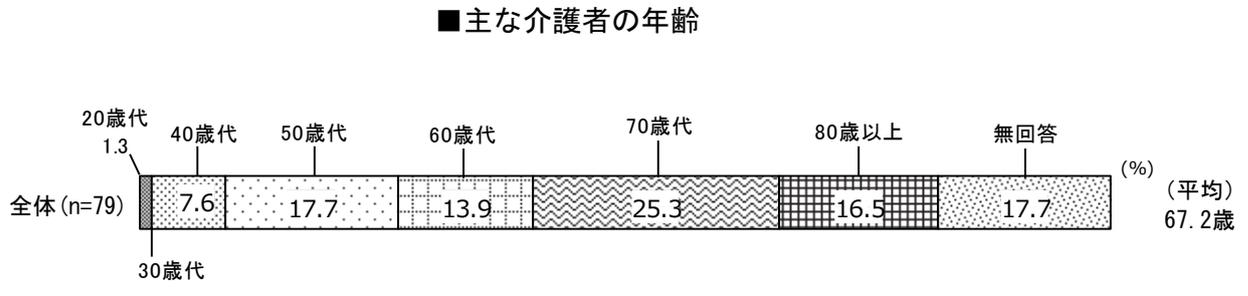
■ 【前回比較】 主な介護者

	夫または妻	娘	息子	者娘・息子の配偶者	兄弟姉妹	親	その他の親類	所友人・知人、近	その他	無回答
平成28年度調査 (n=79)	40.5	25.3	8.9	2.5	-	1.3	-	5.1	-	16.5
平成25年度調査 (n=138)	47.8	17.4	13.8	7.2	1.4	2.9	-	1.4	0.7	7.2

第2章 各調査の結果

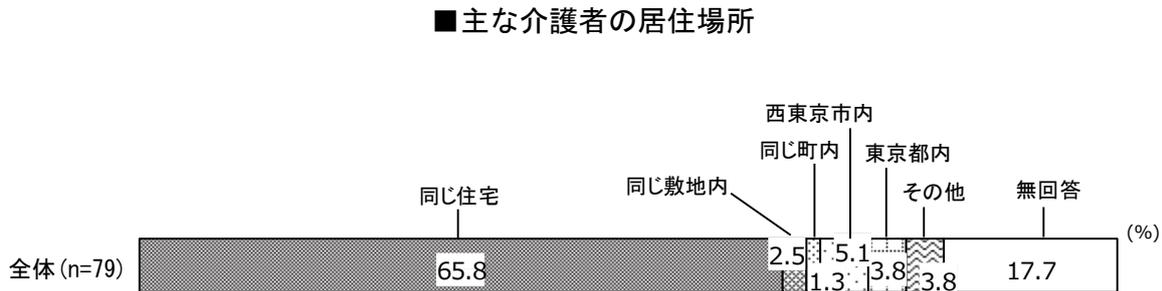
④ 主な介護者の年齢（問 32）

主な介護者の年齢は、「60歳未満」が26.6%、「60歳代」が13.9%、「70歳代」が25.3%、「80歳以上」が16.5%となっている。また、前期高齢者は19.0%、後期高齢者は30.4%、平均は67.2歳となっている。



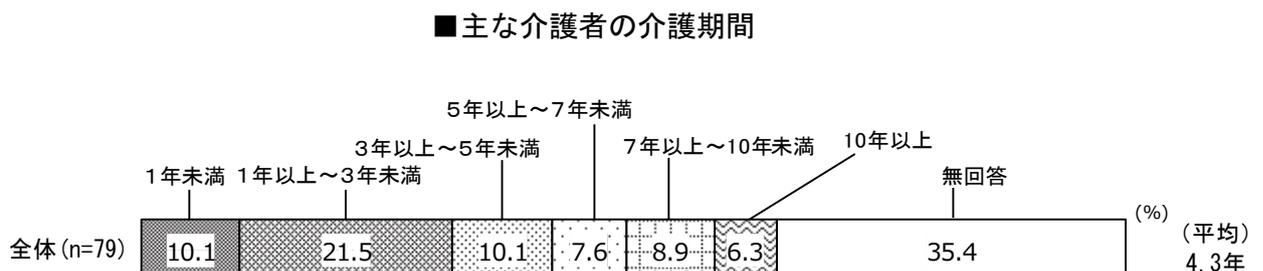
⑤ 主な介護者の居住場所（問 33）

主な介護者の居住場所は、「同じ住宅」(65.8%)が最も多くなっている。なお、「西東京市内」(「同じ住宅」「同じ敷地内」「同じ町内」「西東京市内」の合計)は74.7%となっている。



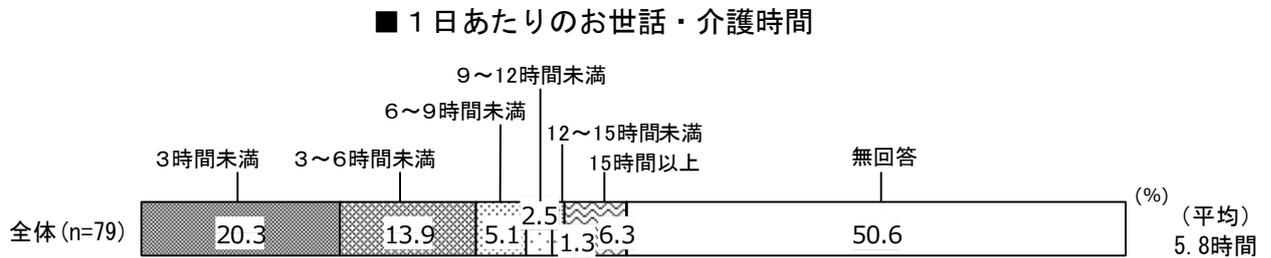
⑥ 主な介護者の介護期間（問 34）

主な介護者の介護期間は、「1年以上～3年未満」(21.5%)が最も多く、次いで「1年未満」「3年以上～5年未満」(ともに10.1%)が多くなっており、平均は4.3年となっている。



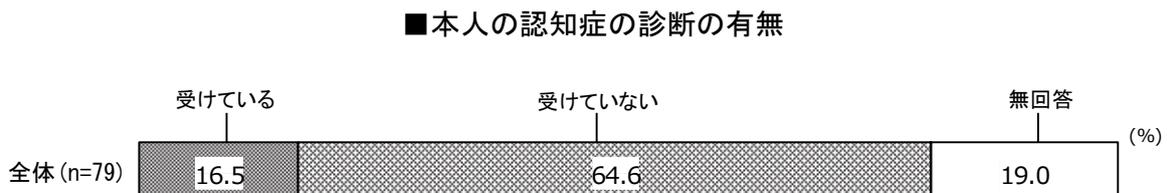
⑦ 1日あたりのお世話・介護時間（問 35）

1日あたりのお世話・介護時間は、「3時間未満」(20.3%)が最も多く、次いで「3～6時間未満」(13.9%)が多くなっており、平均は5.8時間となっている。



⑧ 本人の認知症の診断の有無（問 36）

本人の認知症の診断の有無は、「受けている」が16.5%、「受けていない」が64.6%となっている。



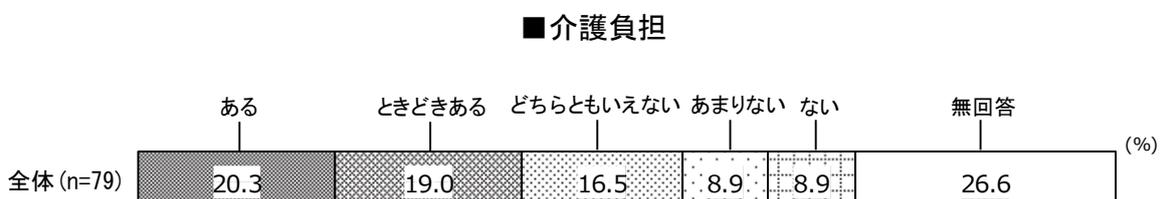
平成25年度調査と比較すると、「受けている」が8.1ポイント減少している。

■ 【前回比較】 本人の認知症の診断の有無

	割合 (%)		
	い受 るけ て	い受 なけ いて	無 回 答
平成28年度調査 (n=79)	16.5	64.6	19.0
平成25年度調査 (n=138)	24.6	61.6	13.8

⑨ 介護負担（問 37）

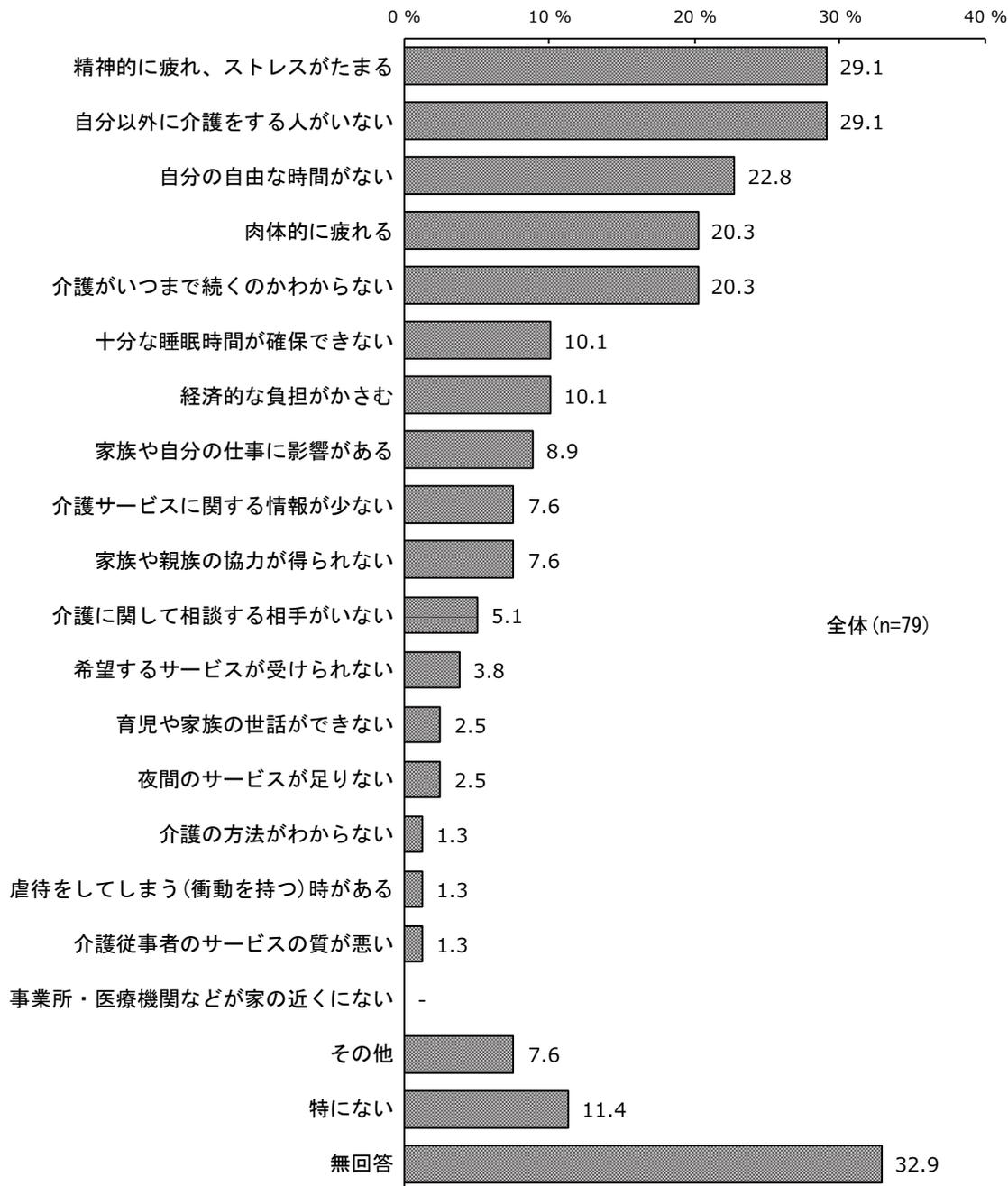
介護負担は、「ある」(20.3%)と「ときどきある」(19.0%)の合計で約4割を占めており、「あまりない」と「ない」はともに8.9%となっている。



⑩ 介護をするうえでの困りごと（問38）

介護をするうえでの困りごとは、「精神的に疲れ、ストレスがたまる」「自分以外に介護をする人がいない」（ともに29.1%）が最も多く、次いで「自分の自由な時間がない」（22.8%）が多くなっている。

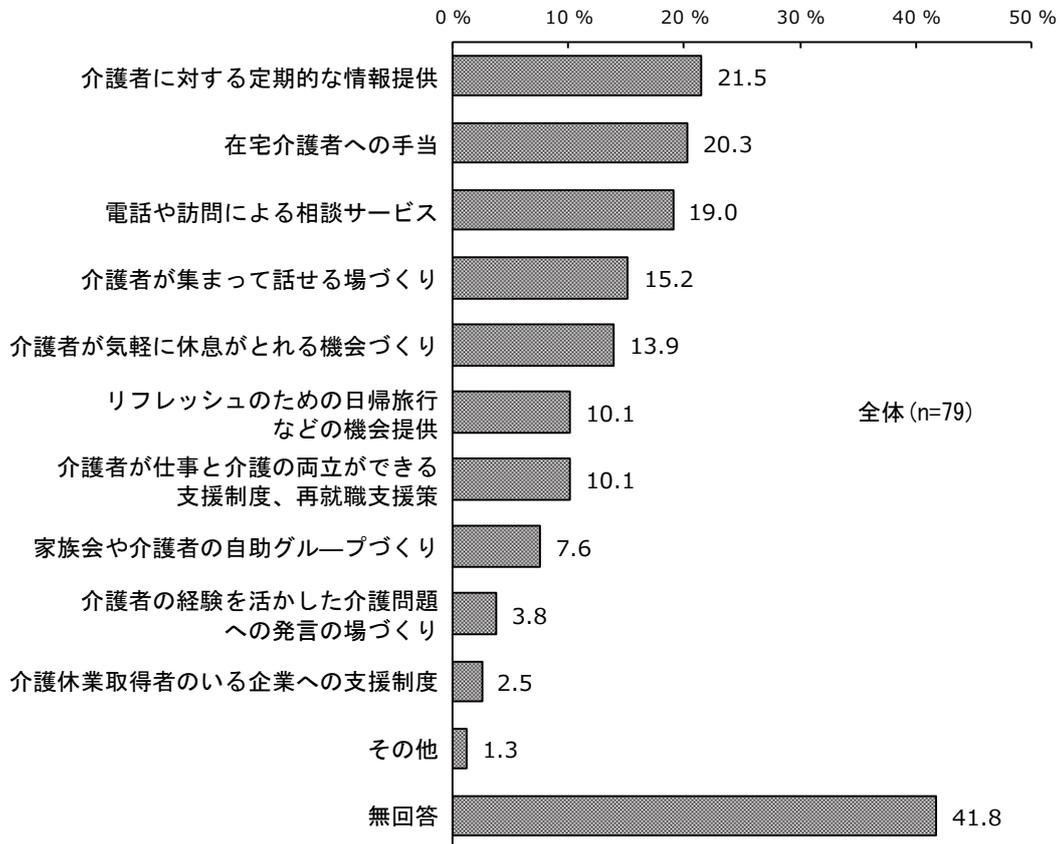
■介護をするうえでの困りごと（複数回答）



⑪ 介護者の支援策で必要なもの（問 39）

介護者の支援策で必要なものは、「介護者に対する定期的な情報提供」（21.5%）が最も多く、「在宅介護者への手当」（20.3%）、「電話や訪問による相談サービス」（19.0%）と続いている。

■ 介護者の支援策で必要なもの（複数回答）



平成 25 年度調査と比較すると、「介護者が集まって話せる場づくり」が 8.7 ポイント増加し、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり」「介護者に対する定期的な情報提供」がそれぞれ 22.3 ポイント、8.2 ポイント減少している。

■ 【前回比較】 介護者の支援策で必要なもの（複数回答）

	介護者に対する定期的な情報提供	在宅介護者への手当	電話や訪問による相談サービス	介護者が集まって話せる場づくり	介護者が気軽に休息がとれる機会づくり	リフレッシュのための日帰旅行などの機会提供	両立ができる支援策、再就職支援策	家族会や介護者の自助グループづくり	介護者の経験を活かした介護問題への発言の場づくり	介護休業取得者のいる企業への支援制度	その他	無回答
平成28年度調査 (n=79)	21.5	20.3	19.0	15.2	13.9	10.1	10.1	7.6	3.8	2.5	1.3	41.8
平成25年度調査 (n=138)	29.7	25.4	14.5	6.5	36.2	14.5	16.7	6.5	1.4	8.0	5.8	31.2

(%)